

は～とふる 日光

子どもと子育て家族を地域ぐるみで応援したい

「少子化」が大きな問題となってクローズアップされている今日、子どもを育てにくい環境も一つの要因とされています。子育てを支援し、少子化をストップさせることは、男女共同参画社会づくりのための大きな柱です。

今回は、子育てを支援するためのファミリーサポートセンターを運営している、NPO法人「咲らん坊」のスタッフの皆さんにお話をお聞きしました。



▲ファミサポを支える素敵なアドバイザー
前列(左から)新井さん、山本さん/後列(左から)星さん、高橋さん、松本さん

Q1 ファミリーサポートセンター(ファミサポ)とは、具体的にどんな内容ですか。

「おねがい会員」(子育ての手助けをしてほしい方)と「おうえん会員」(子育ての手助けができる方)からなる会員組織です。このセンターは、市からの委託事業で運営されており、おねがい会員の求めに応じ、条件にあった支援ができる会員を紹介し、子育ての相互援助活動をサポートしています。現在、おねがい会員(421人)・おうえん会員(77人)・どちらもできる会員(62人)が登録しています。

援助活動は、事前打合せをしたうえで行われ、終了後会員間で直接報酬を支払うという仕組みになっています。登録は無料で、おうえん会員は、一定の講習を受けていただくことになります。

事業内容は、保育園や幼稚園・学童保育、さらにはおけいこごとの送迎や、保護者の仕事や外出時での子どもの預かりなどがあります。子どもの軽度な病気の場合の預かりなどもあります。子どもを預かるのは、おうえん会員の家庭が原則です。おねがい会員の要望には、柔軟に対応しながら活動しています。ただし、子どもの宿泊は行いません。



Q2 これから活動していきたいことなどありますか。

ファミサポを始めて4年目に突入し、活動件数・会員ともに年々増えています。おねがい会員からは好感を持たれ、おうえん会員もこの支援に喜びを感じているようです。合併し、市内全域に活動範囲を広げていきたいと考えていますが、まだまだおうえん会員が足りていない地域もあります。難しい資格など必要ありません。「子育てを応援したい」という心一つです。ぜひ、ご協力ください。また、リフレッシュするために、子どもを預けることは、後ろめたいことではありません。そうすることによって、子どもともっと楽しく過ごせると思います。ぜひ、このファミサポをご利用ください。(取材:広報紙編集委員)

【ファミサポのお問い合わせは】

電話 0288-21-4152
所在地 日光市今市456(子育て支援センター内)



会員の方が安心して預けられるよう、定期的にアドバイザー間の打合せを行い、意志の疎通を図っています。

「どげんかせんといかん」

— 編集委員の座談会 —

日光市としてスタートし、はや2年が過ぎようとしています。この間、男女共同参画社会づくり市民会議の設立や「男女共同参画プラン日光」の策定、3月15日（土）には、男女共同参画都市宣言記念事業を開催し、「新しい日光」を市内外に発信します。この広報紙「はーとふる日光」も今回で第4号。

そこで、今回は編集委員の方たちに、「男女共同参画社会」を実現するためのいくつかの課題について、事例等をもとに話していただきました。



事例 1 数年前に出産し、現在は育児に専念している女性。出産前は結果の見える仕事に達成感を感じていた。子どもはかわいいし成長に喜びを感じているが、自分自身の達成感はなく、社会から取り残されているようなむなしさを感じている。

意見

1 勤めていた頃は充実していたのでしょうか。子どもはかわいいが、仕事をしたいという思いがあって、子育てだけでは充実感が得られないのではないのでしょうか。

意見

2 私は農家の人と結婚し、農作業が忙しくて子どもを育てるだけで精一杯。他に何も考える暇もなかったように思います。ちょっとぜいたくな悩みのようにも感じてしまいますが・・・。

意見

3 この思いには同感です。私も仕事を辞め実家から遠く離れた人と結婚し、頼る人がいませんでした。家事や子育てはいくらやっても認められることはありません。子育てが大きな社会貢献であることを、周囲の人が認めてくれたなら、価値があることと思えるのでは。

意見

4 私も「一生、食事を作って終わってしまうのでは」と思うことがありました。日々の生活の中に喜びを感じられなかったら、幸せにはなれないのではないのでしょうか。

意見

5 私自身も、ただ何となく生活していると思います。これまでの日本人は価値観が同じでした。時代が変わり価値観が多様化し、一つの場所にいることに不安を感じてしまうのでは。職業も次々と変える時代。大変な時代になりましたね。

意見

6 振り返ってみると、子育て期は最も幸せな時期だったと思います。子育て期のお母さんには、アドバイスしてくれる人が身近にいるといいですね。



コーディネーター

子育ては人をつくるもの。そして社会をつくる大切な仕事です。愛情をかけて基本的なことを教えていくことが実を結びます。

また、出産を機に7割の女性が退職するという数値からは、現代社会の問題点が見えてきます。女性が孤独な育児に陥らないためにも、社会とのつながりを感じながら子育てができるよう、パートナーや地域での協力が必要です。

事例2

もうじき退職を迎える団塊世代の男性。退職後は気ままに自分探しの旅をしたいと考えている。ここ数年自分の親を妻が介護している。介護に疲れ果てた妻のグチをたびたび聞かされ、うっとうしく感じている。仕事一筋でこれといった趣味もなく、これからのことを考えると気が滅入り、今までの人生は何だったのだろうと憂鬱^{ゆううつ}になってしまう。

意見

1

自分勝手ではないでしょうか。自分の親を看てもらっているのだから、妻に優しい言葉をかけ、自分も一緒に介護する気持ちを持ってほしい。また、介護サービス等を利用し、妻の負担を軽くしてあげてほしいと思います。

意見

2

このような夫だったら、退職と同時に熟年離婚したくなってしまうですね。自分も介護に関わり、妻に息抜きの時間を持たせてあげてほしいです。

意見

3

私自身も不安になりますが、日光市は介護サービスの体制が進んでいると思います。他の人の手を借りることで、気持ちも軽くなると思います。

コーディネーター

典型的な会社人間の方で、介護の問題から、家族との関わり方が不得手であることが見えてきます。今後、団塊世代の退職時期にあたることから、同じような悩みを持つ人が増えるのではないのでしょうか。趣味や周囲との関わりを持ち、早くから地域活動を行っていくとよいと思います。時代は、生き方、働き方を男性も女性も見直さなければならない転換期に来ています。また、介護の問題も避けて通れない時代、介護サービス等も上手に利用してみるのもいいですね。皆さんはどう思いますか。

意見

4

特別な話ではなく、団塊世代には、仕事一筋で家族に向き合っていない人が多いのではないのでしょうか。自分探しは家庭の中にある。家族を見つめ直すべきだと思います。



意見

5

私は親の介護を、姉妹が交代しながら当番制で看ることができたので、よかったと思っています。

意見

6

介護をめぐる悲惨な事件が多くなっています。家族で抱えると、切羽詰^{せつば}まってしまうのでしょうか。家族の中に、ヘルパーさんが入れば、事件も起こらないと思います。

意見

7

親を子どもが看るのは当たり前のことですが、介護には期限がありません。介護にあたる人のグチを聞いてくれるだけでも助かります。

コーディネーター

夫自身も悩んでいることを話し、妻に対しては、「ありがとう」「ご苦労さま」と、感謝の言葉をかけることが大切です。男女共同参画の基本は男女が互いに認め合い、感謝し合うこと。感謝は人と人との心を結ぶものです。常に心がけていきたいですね。





意見

1

DV（ドメスティック・バイオレンス＝配偶者等からの暴力）の典型例です。勇気を出して相談窓口に行くべきだと思います。

意見

2

暴力を振るわれると、何も言えなくなり、我慢しないと生活できなくなってしまうようです。



コーディネーター

DVには、身体的・精神的・経済的・性的暴力がありますが、爆発期（暴力をふるう）→ハネムーン期（謝る・優しい時期）→緊張期（イライラする）を繰り返すといわれています。このローテーションが女性に、「私がいなくてだめだ」という気にさせてしまいます。逃げられない状況に陥ってしまうのです。また、このケースでは子どもへの虐待でもあり、子どもに連鎖することもあります。DVは人権侵害であり、犯罪であることを広める必要があります。

意見

6

暴力の連鎖を防ぐためにも、加害者を教育するようなシステムはないのでしょうか。

コーディネーター

国内に「加害者矯正プログラム」を実施しているところがありますが、現実的には効果は薄いようです。DV防止法が施行されてからは、DVも犯罪として認知されるようになってきていますが、まだまだ氷山の一角です。最近では、デートDV（恋人間の暴力）の件数も増加しています。もし、相談を受けることがあったら、「あなたは悪くない。」という言葉をかけ、密かに相談に行くことを勧めてあげてください。「あなたが逆らったから悪い。」という言葉でさらに傷つけてしまう二次被害は、絶対にしないでください。

事例3

夫から暴力を受けている、子育て中の女性。子どもの目の前で暴力を受けることもあり、子どももおびえている。同居の義父母も、暴力のことは知っているが何もしない。子どもを連れ、実家に帰ることは許されず、置いていくこともできず、我慢する毎日。

意見

3

子どもへの影響もよくないので、けじめをつけるべきだと思います。

意見

4

私は、DVを受けていた遠方の友人を援助したことがありますが、本人は心身ともに傷つき、子どもは荒れた状態でした。経験から言っても、相手が変わることはありません。

意見

5

夫の親も知らないふりをするのはおかしいですね。DVは連鎖があると言われます。また共依存するとも言われます。私がいなければだめだ、と思い込んでしまうところがあります。暴力を振るった後、謝ったりされて許してしまうことが多いようです。



※市民アンケートで「なぜ、DVは起きると思いますか。」の質問に対し、「習慣的に女性は男性に従うものという意識があるから」という回答が、男女共に最も高く（65.4%）、次いで「男性が女性より社会的に強い立場にあると思うから」（34.2%）でした。DVの起こる根底には、男性優位の意識や習慣がある、ということがうかがえる結果となりました。

DVについてのご相談は…

◇配偶者暴力相談支援センター

婦人相談所 TEL 028-622-8644

パルティ相談室 TEL 028-665-7714

◇ウイメンズハウスとちぎ TEL 028-621-9993

◇女性の人権ホットライン TEL 0570-070-810

◇日光市人権福祉課 TEL 0288-21-5184

事例4 平成17年12月、旧今市市の小学校に通う女の子が、下校途中に行方が分からなくなり、翌日茨城県内の山林で遺体が発見された。

この事件の発生を受け、各地域で子どもの安全確保のための取り組みが実施されている。

意見

1 私の地域では、子どもたちは集団で登下校していますが、下校時には近所で協力し合い、必ず迎えに行きます。

意見

2 私の地域では、誰もが子どもたちの名前がわかりますので、地域全体で見守っていますね。

意見

3 下校時に見守りを実施していますが、子どもが1人にならないように気をつけています。

コーディネーター

それぞれの地域において、いろいろな取り組みをされているようですね。

では、それらの取り組みによって何か変わったことや、活動を続けていく上での問題点、子どもたちへの影響などありますか。

意見

4 昔は下校時に道草を食うのが楽しかったのですが、今は家に入るまで見守られるのですから、子どもに自由がないように感じます。

意見

5 高齢者の方々が見守りをしていますが、おしゃべりをしたり、時には叱ったりという「ふれ合い」も生まれ、張り合いを持ってやっていたように感じます。

意見

6 毎日のことなので、出てくれる方が固定してしまいますと、きついのではないのでしょうか。

意見

7 車社会になり便利になった分、いつ車中に引き込まれるかわからない不安もあります。

意見

8 最近では、家の前で子どもが殺害される痛ましい事件もありました。どこまで見守ったらよいのでしょうか。現在の子供たちは何から何まで管理されているように感じてしまいます。



意見

9 このような状況の中で育ったのでは、子どもたちの将来が心配になります。仮想現実のゲームで育ち、リセットできるような感覚を持ってしまうのでは。また、様々な情報が入ってきて、正しい理解ではなく何となく理解している。優しい心を育むことが難しい環境ではないでしょうか。

コーディネーター

希薄化しつつある地域社会の連携が、旧今市市の事件以来、見直されてきています。子どもの安全は“地域力”により守られます。子ども、高齢者、一人暮らしの人たちを見守る“地域力”を高めるためには、「あいさつ」は欠かせません。「あいさつ」があふれているまちには、犯罪が少ないと言われています。まずは、「あいさつ運動」から始めてみてはいかがでしょうか。

意見

10 子どもたちに、「知らない人には返事をしてはいけない」と教えなくてはならない環境では寂しいですからね。

〈コーディネーター：男女共同参画課 福田 英子〉

編集後記

「男女共同参画社会」づくりには、民・官一体となって共有し、協力して問題点を提起していく。そのことについて、女性も男性も認識を強く持って、日常の生活の中で取り組み、活かしていく努力が求められていると考える。

この分野においても、“国際文化都市日光”の名を、市内外に発信できる日が近いことを願いつつ……。 (A・K)



ニュース1

男女共同参画セミナーを開催しました！！

日光市では、男女共同参画社会推進のため、市内各地域でセミナーを開催しています。これまでに開催しましたセミナーをご紹介します。

今市地域



H19. 10. 29 (月) 県立今市高等学校体育館

テーマ：夢をあきらめない

講師：住友信託銀行(株) CS推進部長 矢島美代さん

演題：『自分らしく生きるために・・・』

前向きな発想で自分を成長させながら、自然体で仕事と家庭を両立させている矢島さん。自分自身としっかり向き合い、夢を持ち続けながら努力していく者こそが“人生の成功者”であると講演してくださいました。

H19. 11. 8 (木) 日光商工会議所鬼怒川事務所

テーマ：生涯にわたる心と身体の健康づくり

講師：心のクリニック「ハートピット」所長 山崎雅保さん

演題：『男女が共に生きる喜びを分かち合う心』

子育てや地域活動こそが、人間として真に成長させてくれるという山崎さん。後々齟齬で良好な夫婦関係・家族関係を保つために、男性も女性も共に助け合いながら仕事と家庭生活をおくることが必要であると話されました。



藤原地域

日光地域



H19. 11. 21 (水) 日光総合会館

テーマ：地域づくり・人づくり

講師：栃木県シルバー大学校中央校 講師 高尾憲弘先生

演題：『地域づくりは、人づくり』

まず地域の現状を知ること、地域の問題を意識することが必要であるという高尾先生。一人ひとりが危機感を持ち、今すぐに行動することが大切であり、男女にかかわらず、人それぞれの資質を活かすことで、人をつくり、地域をつくれると講演されました。

ニュース2

配偶者暴力防止法が変わりました！

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（配偶者暴力防止法）」の一部改正が行われ、平成20年1月11日から施行されました。改正のポイントは

□ 保護命令制度の拡充

① 生命・身体に対する脅迫を受けた被害者も申し立てができる

② 被害者に対する電話・電子メール等の禁止

③ 被害者の親族等へも接近禁止命令を発することができる

□ 市町村に対する基本計画策定の努力義務 などです。

※詳しくは配偶者からの暴力被害者支援情報サイト

(<http://www.gender.go.jp/e-vaw/index.htm>) をご覧ください。

ニュース3

男女雇用機会均等法が変わりました！

平成19年4月1日より改正男女雇用機会均等法が施行されました。改正のポイントは

□ 性別による差別禁止の範囲の拡大

男性に対する差別も禁止、間接差別の禁止など

□ 妊娠・出産等を理由とする不利益扱いの禁止

□ セクシュアルハラスメント対策の強化

対策が講じられず、是正指導にも応じない場合の企業名公表の対象となる、などです。

※詳しくは厚生労働省ホームページ

(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/kaiseidanjo/>) をご覧ください。